

議長定例記者会見 会見録

日時：令和7年6月2日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 冒頭の挨拶

2 発表事項

- 令和7年度三重県議会インターンシップ実習生を募集します

3 質疑項目

- インターンシップ実習生の募集について
- 議会運営について
- 条例案の修正について
- 議長定例記者会見、正副議長の会派所属について
- 豊かな海づくりフェスタについて

1 冒頭の挨拶

（議長）改めましておはようございます。ただ今から6月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。本日は、議長に就任して最初の定例記者会見となりますので、一言、ご挨拶を申し上げます。この議長定例記者会見は、県民の皆さまに議会活動について理解を深めていただくため、県政記者クラブおよび第二県政記者クラブの皆さまのご協力のもと、議会におけるさまざまな取り組みや、県政における課題などについて広く発信する大変重要な機会であると考えております。これからも引き続き、議長定例記者会見を開催してまいりますので、よろしくお願いを申し上げます。ここで、副議長からも一言、ご挨拶を申し上げます。

（副議長）おはようございます。第1回目の定例記者会見ということで私からも、一言ご挨拶申し上げたいと思います。今年一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。副議長ということで広聴広報会議の座長でございますので、開かれた議会運営、情報発信していきたいと思っておりますので、ぜひとも県政記者クラブ、第二県政記者クラブの皆さまのご指導、ご協力のほど、一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

2 発表事項

- 令和7年度三重県議会インターンシップ実習生を募集します

（議長）それでは、本日は「令和7年度三重県議会インターンシップ実習生の募

集」について、発表させていただきます。お手元に配付の発表事項1の資料をご覧ください。まず、「1 目的」ですが、このインターンシップは、実習生の知見を活用した客観的な視点から、議会の在り方等に対する提案・意見を受けることにより、三重県議会における監視機能の強化、政策立案および政策提言の充実に資すること、学生のキャリア形成の支援及び地方公共団体における議会の役割に関する理解の増進を通じて、地方自治の課題に的確に対応し、地方分権の推進に資する実践的能力を有する人材を育成することの二つを目的としております。「2 実習期間」でございますが、今年の9月ごろの2週間程度を予定しております。次に、「3 受入対象者」でございますが、大学院で、公共政策に関連する研究を行っている学生2名以内としております。次に、「4 実習内容」は、当県議会の取り組みや業務内容のガイダンス、本会議等の傍聴、議員との意見交換、事務局業務などを行っていただき、それを通じて実習生から意見発表を行っていただくことを予定しております。実習生からの報告会は、実習終了後、別途日程を調整して公開で実施します。次に、「6 募集等」でございますが、募集期間は、本日6月2日月曜日から、7月4日金曜日までとします。次に、「7 参加経費等」ですが、より多くの募集を確保するとともに、良い人材、実習生を確保するために、実習生に対して、提案に対する謝金を支給することで、実質的な負担軽減を図ります。このインターンシップ実習は、これまでの16年間で計21名を実習生として受け入れており、地方自治の現場を体験する貴重な機会にもつながっているのではないかと考えており、多くの方にご応募いただきたいと思っております。私からは以上でございます。よろしくお願いを申し上げます。

3 質疑項目

○インターンシップ実習生の募集について

（記者）幹事社です。よろしくお願いいたします。まず幹事社から一点質問させていただきます。今回インターンシップっていうことで、どのような人材の方に参加してもらい、また、インターンシップを経験して、どのようにこの参加者の方に活かしてもらいたいのかという考えを伺ってもよろしいでしょうか。

（議長）私たち若者とか女性に対して、議会に対するご理解をいただきたいというのが、あくまでも今回の所信表明の折にも、記者会見の折にも、お話をさせていただきました。非常にこの若者の議会離れといいますか、そういった理解を深く考えていただく場にしていきたいという思いがありますので、また今回も引き続き、昨年同様、考えていこうと、このように思ったことでございます。改めて、この実習生の皆さんの身分等につきましては、執行部（注：正しくは「事務局」）としっかりと考えさせていただいて、2名以内ということでありますので、募集が多い場合は、そこからまた人選をさせていただくということでありますので、その点だけご理解いただきたいと思っております。

（記者）幹事社からは以上になりますが、各社さんお願いします。

（記者）昨年度はどのような成果がありましたかね。この事業は。昨年度の方は。

（議長）昨年度の方については、私、今回、まだ議長になったばかりでございますので、昨年度インターンシップの方、お見えだったんですが、発表会等々、いろいろとここでやっていただいたというのは思っておりますけど、どういう方だったのかというのは、大学院生の方だったということだけは確認しておるんですが、詳しいことはプライバシーの問題でございますので、なかなか言えないと思いますが、いかがでしょうか。ちょっと事務局の方で何か分かるものがあればお伝えしたいんですが。

（記者）大丈夫です。次、謝金の話なんですけど、謝金は去年に比べて増えている。同じ額。

（議長）事務局お願いします。

（事務局）2千円アップということでございます。

（記者）この理由は。

（事務局）最低賃金が去年から上がっているということを勘案しまして、それを踏まえて算定をしたということでございます。

○議会運営について

（記者）他によろしいですか。発表事項外で、幹事社から質問させていただいてもよろしいでしょうか。

（議長）はい。

（記者）一点ちょっと質問させていただきたいんですけども、明日から議会の方が始まると思いますが、改めてということで、議長としてどのような議会運営をしていきたいか、お考えを伺ってもよろしいでしょうか。

（議長）就任いたしましてからまだ1ヶ月経たないわけですが、どのようなというよりも、やはり開かれた議会改革を私は考えております。当然、議会改革推進会議の委員の皆さんと、しっかりと改革路線も少しお考えをいただきたいと考

えておりますので、その点だけはまだまだこれからでございます。また、随時打ち合わせをさせていただいて、進めさせていただこうと、このように考えております。

（記者）ありがとうございます。各社さん、お願いします。

○条例案の修正について

（記者）議会で提出される条例案ですけど、いわゆる旅費条例がですね、提出前のことではありますけれども、条例案の修正があったと思いますが、これについての受け止め、ご感想があればお願いしたいんですが。

（議長）改正案がちょうど2、3年前でしたかね、3年前ぐらいに改正されたと思うんですけど。実際それは、われわれ、その旅費等とか、そういう予算的なことの改革をするわけではなくて、報酬の問題とかそういうのは、もう横に置いてあります。考えておる状況ではないんですが。われわれがいろいろと活動することに関して実際になかなか、もちろん政務活動費の問題等々、個人もありますし会派もございます。そういったところを実際に使い勝手のいいようにと言ったら失礼なんですけど、議員が使い勝手がいいのではなくて、やはりしっかりと活動していこうと、こういう議員の先生方、もちろん全員がそうなんですけど、そういったところの使い勝手ということを、少し変えさせていただいてもいいのではないかと考えておりますので、その辺のところは、これ議会改革というのは、この予算とか、そういう政務活動費以外に、私ども正副で考えていこうと思っておりますので、その点だけは、この政務活動費だけではございませんので、その点だけご理解いただきたいと思います。

（記者）その話ではなくて、職員の旅費条例の改正案が今回提出されますね。これについて、直前で県当局の方から、条文に誤りがあって修正をされたと思うんですけども、それは把握なさってますか。

（議長）把握してましたかね。

（記者）旅費条例じゃなかったかな。

（事務局）事務局ですけども、その報告はちょっと事務局としてまだ受けておりません。

（記者）把握なさってない。

(事務局) はい、申し訳ございません。

(記者) 確か、金曜日に当局の方から、条文に誤りがあったと。配偶者の定義に関する条文で、文言が誤っていたということで、報道関係には修正が投げ込まれているはずなんですけど、議会として把握されてない。議長も。

(議長) 把握しておりません。

(記者) わかりました、ありがとうございます。

－第二県政記者クラブも含めてお願いします－

○インターンシップ実習生の募集について

(記者) 発表項目に立ち返るんですけど。インターンシップ、もともとできたときからちょっと問題視されてて、前期の中嶋議長のときに、まあ、一応、クラブ総意ではないけど、この会見等で、旅費も全く出ないしその宿泊費も0っていうのは学生さんにとって負担じゃないかみたいな話が出て、それは課題として残すと、次の議長に送ると言って送られて、今期から改選後に一応実費っていうか謝金という形でついたんですけど。現実見るとですね、近場で交通費ぐらいはこれで相殺できると思うんですけど、多分一番その負担がかかっているのが宿泊費で、市内のビジネスホテルとか泊まっても7、8千円で、それが10日ぐらいということは7、8万かかる。そうなる結構その負担がかかっている部分もあるし、逆にそういうのがネックになってその応募が少なくなっているのかもしれないし、その辺の捉え方とか含めてですね、やはり再検討が必要なんじゃないかと思うんですけど、その辺はいかがですか。

(議長) 謝金の問題等々、いろいろと(事務局と)執行部の方でご協議をいたしたんですけども。実際に三重県の、官舎、県の住宅を使用したらどうかとか、いろんな意見も出ておりましたけども、実際にどうしてもホテルに泊まっていたら、実際に県の方に動いていただく、行動していただく。ホテルの安全性とか、そういったものも含めてしっかりと対応していかなくちゃいけないというところから、この謝金の問題が継続をしていくということだと私は理解しております。学生さんの安全性というものを最優先に考えて、われわれもしていくべきだと思っておりますので。その点だけ、金額に見合うかどうか、この2分の1ということで3万9千円としましたけど、実際に、それは非常に学生さんにとってプラスなのか、マイナスになって働くのか、今非常に物価とかそういうのもホテル代も上がっておりますので、その辺のところは、今後の、これからやらせていただく状況としては、謝金という問題をしっかりとさせていただこうと思

っております。

（記者）泊まる場所については、県営住宅が今入居者も少なくなってるし、職員宿舎そのものも津市内にあって使われてないものが多いんで、逆にそれを使ったらどうかと記者クラブ側から何かそういう指摘もさせていただいたりしたんですけど、その時に職員でない人が使えないとかいうそういうのがあって結局、総務部の財産、管財の方でそれがはねられてるんですけど、ただし災害時に他県から別に公務員じゃない人も受け入れたりするじゃないですか。それからいくと今議長がおっしゃったセキュリティの問題もですね、逆に他県から受け入れる人達を県営住宅なんなりそれをあてがったときに、使っていただいたときに、セキュリティが確保されてるかという問題にもなるし、そこは含めて断るための理由付けでしかなくてですね、こっちから考えるとですよ。そこは一度やっぱり再検討が必要じゃないかなというふうには思いますけど。

（議長）インターンシップの学生さんはまだまだ大学院の方であったりするわけですので、年代的に言うと 23、24 とかそういう年代になると思っています。実際、他県から出張で来ていただいた方が望まれば、他県の方から望まればわれわれ三重県としても対応をしていくということでもありますし、もちろん一般の方を泊めるわけじゃなくて実際に職員の方とかそういった方を緊急にお泊めするということは、私はあってもいい、当然必要なんではないかなと思っておりますので、やはり学生さんというのはご家族から離れて生活しておられる方がほとんどだと思いますので、その辺のところの安全対策というものはしっかりと、ホテル側の方もセキュリティをしっかりとやっていただけるんだろうというところで、今回も謝金という形でやらせていただきたいと思っていますのでお願いいたします。

○議長定例記者会見、正副議長の会派所属について

（記者）あと冒頭でこの議長定例会見のことをおっしゃったんで、それに関連して、議長ご就任のときにもちょっとご質問させていただいたんですけど、もともと平成 19 年に岩名秀樹さんという方が 3 回目の議長になられて、その時にちょうど 100 代議長だったんでメモリアル的な意味合いをもってこの議長定例会見を始めて、その時は全国都道府県および市町村議会を含めて、全国で唯一定例会見を初めてやったというふうなところでずっと続いているんですけど、そこまで重要視されるなら、三重県議会基本条例に書き込む必要があるんじゃないかとこの前議長就任のときにお聞きしたのと、あともう一つ、正副議長が会派を離脱してはどうかというお話をお聞きしたりしたんですけど、それはその後検討されたりとか、あるいは何か今後検討される余地はあるんでしょうか。

（議長）一番最後の質問として会派を出て無所属という形でされるのはどうかというようなご質問だと思いますが、実際に今私も自民党県議団に入っておりますので、その辺のところは以前岩名先生が議長やられたとき、それからずっと、あの方 100 代の議長さんだったと思いますが、実際にそれから 15 年（注：正しくは「18 年」）経ったわけでございまして、われわれもどのようにするのかということはまだ、歴代の議長さんも考えはされなかったと、決定はされなかったと理解しております。今回もわれわれ会派に所属した形で議会運営をさせてさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

（記者）二つ今申し上げて、一つ、会派の件は、今まで通り抜けないということですね。

（議長）はい。

（記者）県内市町村議会等では、村議会はないか、市議会等で抜けているところもあって、国会でさえ一応正副議長に関してはそこのところ、党籍をその間停止するじゃないですか。それからいくと示しがある程度つかないと思うので、改革先進議会なら三重県議会だと、少なくともそこはそうされた方がいいんじゃないかって話があるんですけど、その辺も含めても一応、服部議長および森野副議長はそこのところは踏み出さないという感じですか。

（議長）森野副議長としっかりと相談させていただいて、われわれ記者会見のときも超党派で今回、われわれ議会運営していきたいと申し上げたように私は思っていますが、実際にわれわれ正副議長というのは中立の立場でございまして、もちろんしっかりと各会派の皆さんと協議を重ねて、進めていくのはもちろんでありますので、その点は党に属する議員の先生方、私もそうなんですが、実際にそういうのを置いておいて、やはり中立の立場で議会運営をやっていくというのが私たちの正副の考えでございまして、その辺のところはご理解いただきたいと思ひます。

（記者）森野副議長はいかがですか。会派離脱について。

（副議長）議長と行動については合わさせていただきたいなと考えております。

（記者）あと議会基本条例に定例会見をきちっと書き込むという、それについてはいかがですか。

（議長）今後検討させていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと

思います。

○豊かな海づくりフェスタについて

（記者）あとその他事項でもう一点お聞きしたいんですけど、昨日 11 月の豊かな海づくり大会の事前的なイベントとして、フェスタが宿田曾でありましたですよ。議長も出られてるんですけど。たまたま中止、風が強くて中止になるんですけど、本来豊かな海づくり大会の大きな行事の中に、漁船パレードがあるんですけど、今回の三重県でやることに関しては、先頭を海保の巡視艇が切るっていうふうになって、それが全部の首長に知られてるわけでもなくて、一部その実行委員会の中で共有されてるみたいなんですけど。知事にまだ確認してないんですけど、多分これは知事の方から指示があって、受け入れてるんですけど。昨日、実際、中止になっているから、ご覧になってないと思うんですけど、そういうことに関してはどう思いますか。

（議長）豊かな海づくり大会のプレイベントは、昨年度ですか、延期になって、この間、私も行かせていただきました。私たちが逆に主催者の立場としてしっかりと知事部局とも協議させていただいて、前向きな形でやらせていただきたいと思います。南伊勢町、会場の中で、非常に盛り上がっていた形の中で、これから漁業とか海の環境が良くなっていくというのが、これは始めの第一歩でございますので、11 月 9 日全国大会をした状況の中で、特別委員会も今作っていただいていますので、豊かな海を作るのはこれからでございます。ですから、それを継続的にしっかりとやっていただければ、議員の先生方も考えていただければありがたいかなと思いますし、知事部局ともしっかりと連携を取って、われわれも行動させていただきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

（記者）すみません。問題点ちょっと言うのを忘れてるというか、ずれてるんですけど、要は、豊かな海づくり大会ってのは漁業者の祭典なんですよ。だからその全国的な事務局っていうのは全漁連がやってる。全漁連にも確認しましたが、過去、豊かな海づくり大会で、海保の巡視艇がその漁船パレードに加わったっていうのは平成 23 年の鳥取県の大会でしかない。このとき海保の船は少なくとも最後尾を走ってるわけです。今回は先頭を切るっていうんで、一部漁業者、組合長とか含めて、おかしいじゃないかと。何で漁業者の祭りにも海上保安庁が出てくんねんという話になって一部不協和音があると。それについて、議会としてですね、特別委員会も作られるわけですけど、豊かな海づくりそのものも県議会議員は全部入っておられるんで、その辺どう思われるかっていう話です。

（議長）今お話いただいたのは、私も海上保安庁の船がトップを切っていくとい

うことは知らなかったものですから、申し訳ございません。実際に特別委員会のメンバーと、そしてまた知事部局ともしっかり協議させていただいて、これが正しい方向なのかどうか、やはり考えていかないといけないと思っていますので。現地の皆さんと、話し合いを進めていただきたいということは申し入れしたいと思っていますので、よろしくお願いします。

（記者）他によろしいでしょうか。

（事務局）先ほどご質問いただきました旅費条例の修正のことにつきまして、大変失礼いたしました。連絡が事務局にございまして、修正の対応をさせていただきましたということで、事務局内で情報共有がされておらず、大変失礼いたしました。申し訳ございませんでした。

（記者）発足して二か月経つんだから、もうそろそろ事務局もきっちりしないといけないんじゃないの。今のインターンシップの3千9百円云々っていうのも、金額が去年と違うというのが、例えば手間取るとか、全然事務局体制になってないじゃない。それってのは事務局長とか含めて、みんなの足引っ張ってることじゃないの。上司に恥かかさないうってのは君らの役目じゃないのか。

（事務局）失礼いたしました。

（記者）修正は、正副議長の方にも共有はされるということなんですかね。これから。

（事務局）議案として、提出はまだされてない、準備段階ということでしたので、過去にありましたような議案の修正という取り扱いではなくって、提出前に。

（記者）それはあなたたち職員の理屈であって、本来こういうふうには訂正がどうかありましたというのは、議長とか副議長に伝えるのは当たり前じゃん。ほんで少なくとも会派長にも伝えるのが筋じゃないか。それが滞ってるのはあなたたちの怠慢だよ。そのことをまず謝罪しなさいよ。

（事務局）大変失礼いたしました。

（議長）誠に申し訳ございません。私も確認しなかったものですから、すみません。しっかりと対応してもらうように、私たちも注意していきますのでよろしくお願いします。

(記者) 他によろしかったでしょうか。以上になります。ありがとうございました。

(議長) どうもありがとうございました。

(以 上) 10時58分 終了